

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 2 日作成)

小委員会名	空間構造設計規準調査小委員会		主 査 名：大森博司 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会)		委員長名：和田 章 主 査 名：大森博司
設 置 期 間	2008 年 4 月 ~ 2012 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>目的：社団法人韓国空間構造学会附設研究所より、調査研究の委嘱「韓国国内での空間構造物に対する設計指針資料作成」を日本建築学会が受けた。このための活動をこの小委員会が中心となって行う。</p> <p>活動：第一回会議：2008 年 8 月 29 日～31 日、韓国・済州にて会議を行いスペースフレーム、システムトラスについて日本での設計の現状について資料に基づき報告した。第二回会議：10 月 27 日、メキシコ、アカプルコにて会議を行った。第三回会議：12 月 12 日～13 日：京都にて会議を行い、ケーブル構造についての日本の設計の現状について資料に基づいて報告を行った。</p>		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 大森博司(名古屋大学)、大崎純(京都大学)、川口健一(東京大学)、小田憲史(高知高専)、植木隆司(巴コーポレーション)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2008 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 2008 年度は 3 件の現地報告会を行い、技術検討を行った。 2. 2005 年度以降調査した作品群の技術レビューの整理手法についての議論をスタートした。
委員会活動の問題点・課題	1. どのような催し物・刊行物の形で成果を発表すればより多くの参加者を集め社会に有意義な還元ができるかの議論を絞り込み、その準備を行うことが今年度の課題と考えています。